

# いの流水俳壇

松尾 満津於選

## 「当季雑詠」

髪撫でる風の軽さや秋桜

大川 節弥

〔評〕秋桜はコスモスのことをいう。栽培が容易い、路傍や畦、畠中、田圃等にヒヨロヒヨロと細く長い莖に、白色、淡黄、紅紫色等、多くの花をつけ風に靡く。頭の髪に当る風も、コスモスの風も如何にも秋にふさわしい心地よい風である。

コスモスのとびとびつづけり平家村

川上こよね

〔評〕平家村は、源平合戦で敗れた平家の落人が、人目を避けてひっそり住んでいた村である。その子孫が今も残っている、高知県の山間部や吉野川流域の各所に住んでいる。コスモスは一、二本で咲くことは珍しく群がって咲く、とびとびというのは、人も家もとびとびに住んでいるのであろう。昔住民が隠れ住んだ里であるだけに郷愁も一入。

屋台の灯ゆれて客待つ夜長かな

中野 好子

〔評〕夜長は秋の季語、実際に夜の長いのは冬であるが、九月頃になると夜の長いことを感じはじめる、気候が寒さを感じさせない頃であるだけに、むかしの農家は盛んに夜なべで竹籠を編んだり、野良着の繕い、藁で縄を編んだりしたものである。屋台の灯が恋しいのもこの頃。

同じ庭今朝も見て立つ秋桜

片岡 包女

〔評〕感情の変化のわかる句である。昨日も見た、その前日も見たコスモス、今朝も亦見る。作者はコスモスを毎朝見ているのである。何も考えない、ただ見てるだけ、それでいて飽き足りないのである。今朝もまた庭をながめて秋の深まりを感じる。今朝見たコスモスは、実際正直に心を一点に集中した秋桜。コスモスに身をゆだねてはじめて自分の存在を確認するといった、静かな日常を垣間見せた句である。

鈴なりに曲りし枝に柿撓む  
森岡 照月

豊の秋田は一枚の色となる  
刈谷 志津

城壁の銃眼三角深む秋  
友草 水月

新涼やひやりとシャツの貝紐 岡本とも子

ふる里を恋ふ人あらば月の澄む 間 浩太

鳳仙花弾けて憂さを飛ばしけり 津田 久美

曼珠沙華古りゆく里の静けさよ 竹崎 光子

朝もやの徐々に薄れて稲架浮ぶ 川村 博子

言い過ぎし悔の残れる秋燈下 川村千凜子

暑さ采け迷句の育つ昨日今日 小島 良

碑の碑のぬくもりや赤のまま 井上 郁子

今朝の秋風の色冴ゆ青き空 秋田 律子

突然に飛び出て来ました彼岸花 楠目 哲郎

意に叶ふほどに風来て吾亦紅 伊藤 たみ

曼珠沙華炎の道を歩みけり 筒井 一平

卒寿すぎゆっくり歩む秋の風 弘瀬うき子

老人落穂拾いて居たりけり 藤田 里野

日焼けせし顔見合わせて立話 筒井 文

山の家木犀の香を纏いをり 川村 愛

晴れ三日続きし郷の刈田かな 松尾満津於

次 題 「当季雑詠」  
締め切り 毎月15日

投句先

吾北教育事務所 上八川甲2010

☎ 867-2133

## 統計 製造事業所の皆さまへ 工業統計調査にご協力ください

経済産業省では、工業統計調査を12月31日現在で実施します。

工業統計調査は、製造業を営む事業所を対象に、その活動実態を明らかにすることを目的として調査します。

調査結果は、国や地方公共団体の行政施策の重要な基礎資料として利用されるとともに、企業、大学などでの研究資料、小・中・高等学校の教材など、広く利用されています。

皆さまからご提出いただく調査票については、統計法に基づき調査内容の秘密は厳守されますので、正確なご記入をお願いします。

問い合わせ

企画課

☎ 893-5855

経済産業省・高知県